

2020年度 FM 卓越科目レポート

FM バックキャスト研修
大崎市民病院

2020年10月21日
Fグループ

【授業前の知識】

大崎市の2015年の総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は27.0%となっており、市民全体の4分の1以上が高齢者という状況にある(国勢調査・総務省データ)。このように高齢化人口の比率が高くなっている大崎市において、地域病院として中核を成す大崎市民病院は、運営・勤務する医師の労働環境の面で過酷な状況にあると予想される。また、高齢者の人口が急増する一方で、若い世代の人口と労働力は減少傾向となり、医療業界における需要と供給のバランスが崩れ、大崎市民病院においても医師不足といった問題が生じていると予想される。こういった高齢化に伴う問題・弊害が起こると予想される医療業界において、大崎市民病院も医療面での対策や介護サービスなどに力を入れているのではないだろうか。未来にむけて現在の医療体系のあり方を見直しているのではないだろうか。

【授業の目的】

現場観察を通して地域医療の現状と課題について知り、地域医療の未来像を創造する。

【授業内容】

< 1日目 >

- 9:45~ オリエンテーション・自己紹介
- 10:15~ 病院についての講義（福富先生）
- 11:20~ 薬剤部見学（本田薬剤長）
- 13:00~ 臨床検査部門見学（大柳技師長）・病理診断部門見学（坂元部長）
- 14:10~ 大崎市民病院の概要の講義（並木院長）
- 15:00~ 透析についての講義（福富先生）
- 16:00~ 透析室見学（杉浦透析センター長）

< 2日目 >

- 9:00~ リハビリテーション室見学（齋藤技師長）
- 9:50~ 地域医療連携室の取り組みに関する講義（佐藤地域医療連携室長）
- 10:45~ 医事課見学・地域医療連携室見学（地域医療連携係長）
- 14:00~ 岩出山分院にて訪問診療同行
- 16:30~ 本院5階西病棟見学（三浦看護師長）

< 3日目 >

- 9:00~ 外科手術見学（八鍬看護師長）
- 13:00~ 視察見学（福富先生）

< 4 日目 >

9:00~ 救命救急センター見学 (入野田センター長)

10:00~ 災害医療講義 (今泉副院長)

11:00~ 食道外科について (福富先生)

13:10~ 放射線部門見学 (笠松放射線技師長)

14:00~ WOC (皮膚・排泄ケア) の取り組みに関する講義 (細谷看護師)

15:00~ ICT ラウンド同行 (佐藤副看護師長)

16:10~ ICT の取り組みに関する講義 (同上)

< 5 日目 >

9:00~ まとめ・発表準備

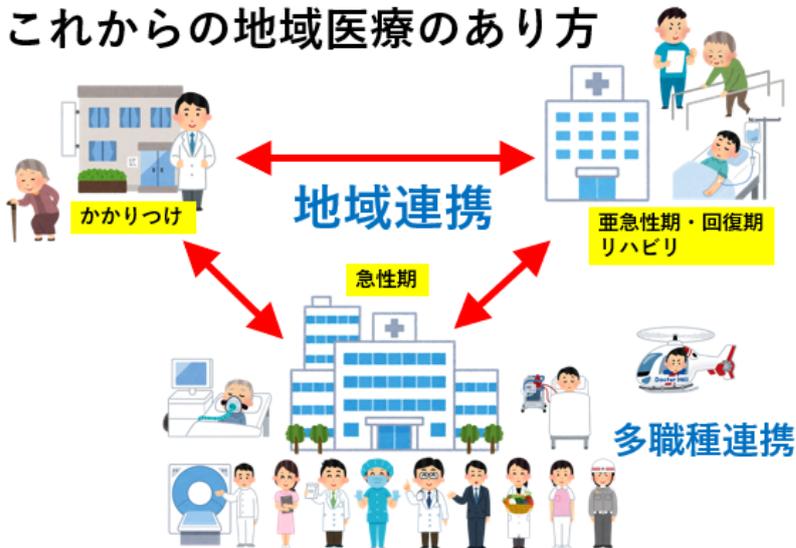
13:30~ 成果報告会 (並木院長・吉田部長・三浦看護師長)

【研究や仕事などに活かせる点・影響を受けたこと】

本研修で最も印象に残った点は、高齢化していく社会を地域で支える地域医療のあり方である。ひとつの病院がひとりの患者の急性期から回復期までを担当するという方法では破綻してしまう。そのために大崎市民病院では、医療圏において医療施設間での密な連携が整えられている。急性期を乗り切った患者を早期に地域の連携病院へ紹介し、平均在院日数を短くして急性期医療の必要な患者を万全の体制で受け入れている。そのためには日頃からの密な情報共有、役割分担が何よりも重要である。院内でも、医師が全てを担うのではなく、看護師、薬剤師、検査技師、臨床工学士、地域連携室など、適切に仕事を分担することで円滑な医療が進められている。また、今後増加していくと考えられる医療費をなるべく抑えるためには、適切どころで機械の力を借りていくことも必要だろう。ネットワークの整備や AI の導入が求められる。

今回は、生命科学、看護、医学と異なる分野に属する 3 名で現場を視察した。互いの異なる視野を共有することで、より発展的な課題を見つけることができた。今後の課題として、情報共有に用いるネットワークシステムの整備や、介護の負担を軽減する体位変換の自動化などが挙げられた。病院間、職種間での情報共有を簡便化かつ高速化できるネットワークシステムは、病院連携や多職種連携を円滑にし、患者を地域で支えていく医療づくりに貢献するだろう。また、体位変換や移乗を自動化・機械化することで、今後増えていく高齢者を自宅で診ることのできる体制づくりにもつながるであろう。

これからの地域医療のあり方



【来年度以降の改善点・授業の限界】

本研修における授業の限界は、病院内の様々な部署を短時間で講義を受ける、見学するという形式により十分な見学ができない点である。各部署を詳細までは知ることができず、部署や地域医療における問題について深く見る、考えることが難しかった。また、患者さんが実際に病院でどのように過ごしているのかもあまり見学できなかった。非医療系の学生が研修を行う場合には病院全体の理解を促すことができるが、医療系の学生にとっては貴重な機会に他にしたい点もあると考えられる。

来年度以降の改善点として、1週間の現場を見る機会を最大限活用することが重要だと考えられる。病院の概要などの講義は事前にオンラインで受け、病院に対するイメージや知識を得た上で研修に臨めば、見学時間を増やすことができ、事前知識を意識して見学することができると考えられる。また、地域病院を知るために半日ずつでも医師・看護師・患者それぞれのシャドーイングをする機会があっても良いのではないかと考えられる。

【まとめ】

大崎市民病院でのバックキャスト研修では、高齢化していく社会を地域全体で支えている地域医療のあり方について学ぶことができた。地域病院間での密な連携や、多職種連携によって地域医療が成り立っていた。今後の課題として、ネットワークシステムの整備やケアの自動化・機械化が挙げられたが、プログラムを通してこれらの課題解決について考えていきたい。